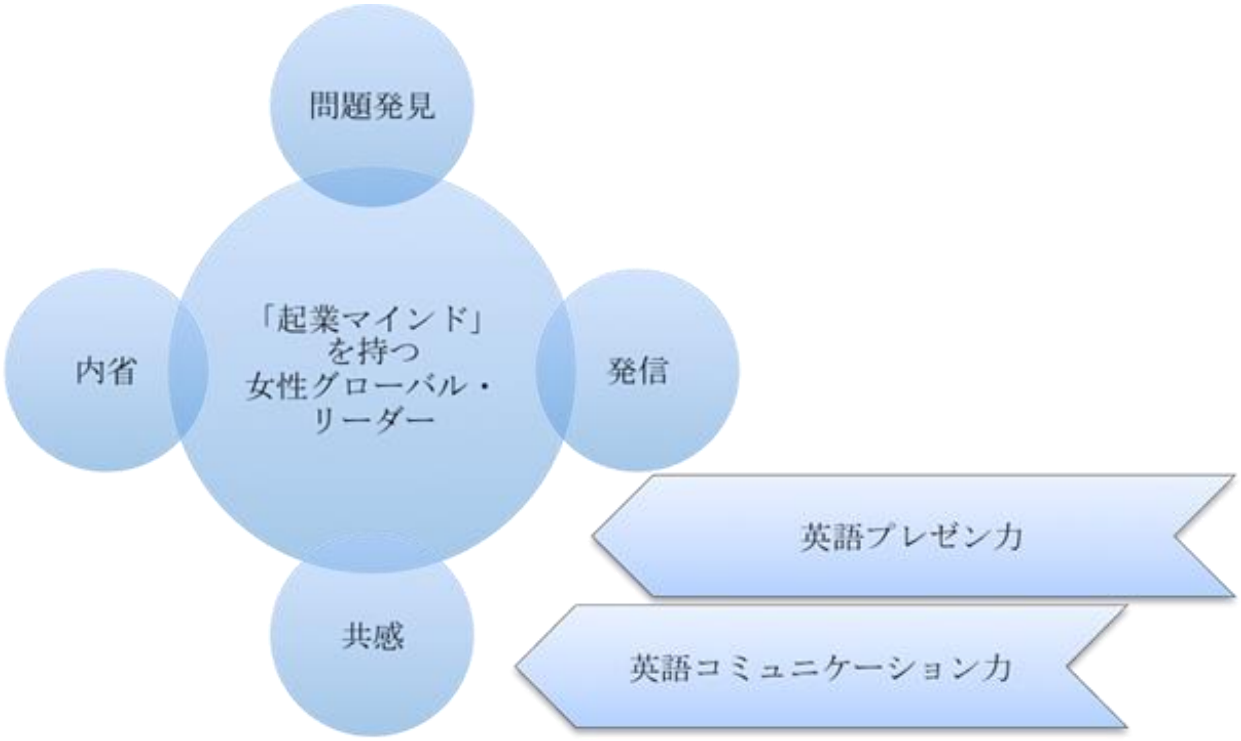
品川女子学院SGH報告

平成30年6月29日

【研究開発構想】学校と社会が連携し、「起業マインド」を持つ女性リーダーを育成する研究



「起業マインド」を持つ人とは、自ら社会の問題を発見し、多様な人を巻き込んで、問題解決に一歩を踏み出す人、と定義

【P1】「問題発見力」を身につけるデザイン思考の講座①

- 高１ 総合的な学習の時間（週１時間）に実施。

→２年目より、中３に前倒して実施。
道徳と２時間連続した時間割にすることで、前半は全体講義、後半はクラス単位のワークショップという組み立てを可能にした（全７週）。

- 身近な事象から問題を発見させることを重視し、そこから、他者及び社会とどうつながっているかを考えさせた。

→講座の後半で、企業とのコラボレーション授業、文化祭展示等に活用し、実践演習を実施。

【P1】「問題発見力」を身につけるデザイン思考の講座②

- 基本はグループ学習
  →他者を巻き込み、共同作業で問題解決に取り組む力を養成するため。

- プレゼンテーションで発表・共有
  →クラス内プレゼンで代表決定後、代表プレゼン実施。

- 外部ファシリテーターの活用
  →密度の高いグループ学習を効果的に進めるため。
  慶應義塾大学坂井直樹前教授（現Water Design代表取締役）の指導を受けた大学生、（株）CURIO SCHOOL所属の大学生を各クラスに最低１名配置。

【P1】「問題発見力」を身につけるデザイン思考の講座③

- 校内での指導法の共有について
  →講座の運営主体となる学年主任候補者を中心として、坂井直樹先生の研修を実施。
  ワークシートの共有や、他学年教員の授業見学を奨励することで、教員がファシリテーターとなれるようにした。
  →中等部の早い段階から、デザイン思考の手法を取り入れた指導を始めている。

- 評価については、次ページのルーブリックを使用。（今年度より）

中3 道徳総合学習の目標と評価

評価項目	評価対象		自己評価	C	B	A	S
コミュニケーション技術	メールの作法			件名や署名を入れられる。 宛先・cc・bccを使い分けられる。	いつも、すぐに返事を返せる。	結論先行で伝達ができる。	可能な限り短い文面で伝えられる。
	話し合いの作法			議題を事前に決められる。 必要な資料を揃えられる。	発言ができる。 メモを取りながら進められる。	相手の話の要点が聞き取れる。 時間内に議事を終えられる。	決まったことは何かを明示できる。 いつまでに何をするかを共有できる。
デザイン思考の技術	問題発見	インサイト		ターゲットを明確にできる。	ターゲットの行動観察ができる。	ターゲットについてデータを取れる。	調査結果に対して自分の言葉で考察し、「問題」を指摘できる。
		意欲と感心		世の中に、おかしい、不思議だと思うこと（＝関心ポイント）がある。	自分の関心ある点について、調べたことがある。	解決のために他人と議論したことがある。	解決のためにアクションを起こしたことがある。
	共感			ターゲットの話を聞くことができる。	ターゲットの話を聞いて、気持ちを理解しようと努力できる。	ターゲットの気持ちを自分の言葉で置き換えて説明できる。	ターゲットの問題点について指摘し、納得してもらえる。
	問題解決			プロトタイプを作成できる。	他者の意見を聞いてプロトタイプを修正できる。	プロトタイプの出来を他者に納得してもらえる。	プロトタイプによって他者の行動を変えられる。
	内省			行動の記録を残せる。	行動の記録について、自己評価できる。	行動の記録について他者に評価してもらう機会をつくれる。	次の行動目標を決められる。
プレゼンテーション技術	構成			訴えたいポイントを絞り、明確に打ち出せる。	意見の根拠を明示できる。	他者の意見との相違を明示できる。	他者にとっても価値ある意見を表明できる。
	資料の作り方			体裁（文字ポイント・フォント・色彩）を整えられる。	適切なメディア（紙・映像・音楽）を選択し、操作できる。	適切な分量にまとめられる。	構成を反映した資料を作れる。
	話し方			発表時間が守れる。	読み上げず、語りかけられる。	相手を意識した話し方ができる。	聴衆から反応（笑い・拍手）がもらえる。
		評価合計		S:5点、A:4点、B:3点、C:2点、C～Sのいずれにも該当しない場合:1点として、50点満点で評価してください。			

【P2】「共感力」「内省力」を身につけるリーダーシップ講座①

- リーダーシップの研究により、「共感力」「内省力」を身につけることを目標として、高1 総合的な学習の時間に実施（全5回）。
- 昭和女子大学キャリアカレッジ学院長 熊平美香先生の講義によってクラスやチームで実践できるリーダーシップの発揮の方法を学ぶ。

  →学校行事等への自らの関わり方を吟味。
- NPO法人Learning for All代表理事 李炯植氏の貧困・教育に関する社会課題に取り組むNPOについての講演。

  →社会課題の解決にリーダーシップがどのように活かされているのかを学ぶ。

【P2】「共感力」「内省力」を身につけるリーダーシップ講座②

- 「身近なところからの問題発見→国際的な問題の認識」を意図して、プログラムを追加。

  ①選抜生徒１０名をRiver Valley High School（シンガポール）のリーダーシップセミナーに参加させ、レポート提出を課した。

  ②SDGsをテーマにしたゲーム「2030 SDGs」を実際に行った後、SDGsから自分の課題を選んで調査、考察し、英語で発表する希望者対象講座を実施した。
  →公民科、英語科と共同で指導。

【P3】家庭科CBL①

- CBL(Challenge Based Learning)とはPBL(Project Based Learning；課題解決型学習)の一種。
  多くの学問領域にまたがる問題解決型学習。様々な日常生活でテクノロジーを駆使して生活する生徒たちが、自分たちのテーマを発見し、情報を探し、集約し、共有し、議論を重ね、最終的に問題を解決するまでのプロセスを学習するプログラム。
  →一次情報の収集とAction planの実施を重視。

- 高２の家庭基礎２時間を連続授業で編成（全８週）。

【P3】家庭科CBL②

- ２時間連続の後半はもう1名の家庭科教員を配置し、ティーム・ティチングを実施。

- 教科間連携について
  ①地歴科教員による「研究・調査の進め方」講義の実施。

  ②メンター制度の導入。
  →家庭科以外の全教員にメンター募集の依頼をかけ、自ら手を挙げた教員をメンターとした（計１９名）。
  ・1グループに1人のメンターを配置。
  ・研究計画書とプレゼンリハーサルのチェックを必須とし、その他適宜調査へのアドバイス等を実施。

【P3】家庭科CBL③

- Kolbe Catholic College（オーストラリア）との連携
  ①萩原伸郎先生によるワークショップの実施（２回）。

  ②テーマに対する生徒の意見収集（メール等）。

  ③オーストラリア研修実施（優秀２班、８名程度）。
  ・クラスプレゼンで各クラス２班程度の代表を選出し、代表プレゼンによって優秀班を決定する。
  ・Kolbe Catholic CollegeのCBL Classでプレゼンテーションを実施し、続けてディスカッションを行う。
  →英語のプレゼンについては、英語科教員が指導。

【P3】家庭科CBL④

課題発見シート

5年　　組　　番　氏名

自分の身近な所で課題を感じることはないですか。

困っていること、疑問に思うこと、不安なことがないか考えて、できる限り多く挙げてみましょう。

衣	食	住	保育

家族	高齢者	消費生活	その他

【P3】家庭科CBL⑤

課題発見シート

5年　　組　　番　氏名

以下のそれぞれの項目について、現代社会ではどのような課題がありますか。思いつく限り書いてみましょう。

衣	食	住	保育

家族	高齢者	消費生活	その他

【P3】家庭科CBL⑥

1	自分たちにとって身近な問題を選んでいるか	テーマが身近であり、根拠が明らかで、解決する意志を感じるテーマであるか。自分たちが取り上げるに値するテーマであったか。
2	調査プロセスを明らかにしているか	調査を的確に行っており、その行程がドキュメントもしくはプレゼンテーションの中で明らかになっているか。研究のスケジューリングが的確に出来ていたか。
3	情報源は確かであるか	Webだけの情報源にとどまらず、自分で一次情報をかき集め、多様な情報源から必要な情報を入手しているか。
4	調査結果を分析し、的確な解決策を打ち出せているか	得た情報から内容を的確に取捨選択し、さらには分析を行い、解決策につなげることが出来ているか。
5	解決策に独自性はあるか	今までに社会ではない解決策であり、さらには問題を解決するのにふさわしい解決策であり、自分たちが行うにふさわしい解決策であるか。
6	実現可能な解決策を提案しているか	自分たちで実行出来る解決策で、問題を解決する本質的なSolutionであるか。
7	プレゼンテーションの質は高いか	プレゼンテーションに必要な要素が入っており、チームの研究を的確に伝える内容であったか。

【P4】起業プランコンテスト等においてビジネスプランを発表①

- 起業体験プログラム

①高１、高２の総合的な学習の時間と、９月の文化祭を活用して実施。

②「企画立案→企業理念の確立→会社登記→株式発行→運営→決算→株主総会」という流れを体験的に学び、その過程で起業マインドの実践に取り組む。

③利潤の追求に終わらないように、理念（社会貢献意識）を重視して評価する。

【P4】起業プランコンテスト等においてビジネスプランを発表②

④東京大学・慶應義塾大学 鈴木寛教授の協力
→ゼミ学生、一般社団法人「全国FROMPROJECT」のメンバーとの交流により、企画案のブラッシュアップを図る。

⑤保護者及び一般企業の協力
→サポート委員として、保護者10数名と新日本監査法人EY Japanの公認会計士数名が参加。
事業計画の審査、事業運営についてのアドバイス、最終的な審査を、教員と共に担当。

【P4】起業プランコンテスト等においてビジネスプランを発表③

⑥評価基準

◆起業体験プレゼン評価基準

・理念性：明確なビジョンを持った企業理念の設定

・貢献性：社会や地域に貢献する活動

・チャレンジ性：独自性、新たな事業への挑戦

・事業性：的確な販売個数や価格の設定、適正な採算の設定

・実行性：企業理念を具体化し、的確なマーケティングやターゲット設定を行って、説得力を持った企画の展開

【P4】起業プランコンテスト等においてビジネスプランを発表④

◆総合評価

・起業体験プレゼン：起業体験プレゼンの順位

・広報力：IRレポートを通じて、進捗状況を報告し、株主に対して「理念の浸透」を図る

・企画実行力：起業体験プレゼンにおいて示した企画（事業計画）を具現化し、実行する（準備期間の活動の充実度、当日のオペレーション、２日目へ向けた改善力）

・展示力：来場者に対する企画の趣旨の明確化

・業績力：ROE（株主資本利益率）を含め、当日の販売数や集客力の状況

【P4】起業プランコンテスト等においてビジネスプランを発表⑤

- 起業プランコンテストへの参加
  ①ソーシャル・ビジネス・アイディア・プレゼンテーション（一般財団法人ｿｰｼｬﾙ・ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ主催）に参加
  ②ビジネス創造コンテスト（品川区・一般財団法人品川ビジネスクラブ主催、関東経済産業局後援）への参加

- 教科の授業との関連
  →高１社会と情報（全１０回）の授業で、起業体験プログラムの振り返りを行い、各自がビジネスプランを立案。（株）ワークスアプリケーションズの協力も得る。